

# 中高生とともに差別と闘う

## 『カオリの本音、カレンの本音』

吉成タダシ (うずしおランチ代表)



### カオリの本音

司会をしていた先生が、「SEAS ONS」の劇中で地区出身の女性役を演じ、結婚までたどりついたカオリに問いかけます。

「ミナコは直接部落差別は受けたことはないって言ったけど、毎日の生活の中でおばあちゃんと一緒にいたら、ひしひしと感じるのよね。感じるんだけど、はつきり訊けない。何でか、わかる？」

「怖い、…から」  
「怖い。…うん」

ミナコも確かめるように言葉を継ぎました。そしてカオリは、今、自分の身の回りで起こっている現実を語り始めます。

「うちのお兄ちゃんが結婚するって、まだしてないんだけど、結婚するって話を親に持ち出したときに、父さんが一番最初に言った言葉が、「彼女は部落じゃないのか」だって。それで、部落じゃないと思うって言ったんだけど、お兄ちゃんは。それでも父さんは調べるとか言ってしつこかったから、うちが怒って、「何でそんなの関係あるの」って訊いたの。そして、お兄ちゃんが部落の人と結婚したら、うちが結婚する時に困るとか言われて。そんなのうちがそれでいいと思ったら、それでいいじゃない。本当は、うちのことじゃなくて、自分らだっただけで思われるのが嫌なだけなんじゃないかって思って。そのあとは何も返せなかったけど…。うん、悔しかった。

た。何も返せなくて、悔しかった。」

### カレンの本音

カオリに続いて、カレンが意を決して語り始めました。あの、写真に写っていたカレンです。

「レナ、本当によく言えたと思う。よく分かる。気持ち。レナの波に乗って、私も言ってみます。

昨日、夜中までいろいろ考えて、メモしてきたんだけど。今まであったことなんだけど、あんまりこの話、人にしたことなくて」

一つ、大きく息を吐き出したあと、思い出しながら続けます。

「二年生の終わり頃に、先生と二者面談したときに初めて先生に言ってる。

この話は、私が小六かな、小六のときの話なんだけど。私がある日家に帰ったら、うちのお姉ちゃんがめっちゃ泣いてて。で、どうしたの？って訊いたら、すごい顔して、どうしようって。子どもができたって。私、最初は、「え、でも…」とかって、ホントに信じられなくて。お姉ちゃん、その時、十九歳か二十歳かな。そのくらいで、どうしようどうしようって言って。まだ彼氏に言っていないって。初めて言ったのが私だったらしくて、それで両親に言えない、言ったら怒られるみたいなの。

その晩、やっぱり彼氏と話して、そしたら結婚しようって言うてくれたらしくて。産んでくれたって。そのことを両親に話したら、彼氏

にめっちゃ怒ったらしくて。で、父さんと母さんは、彼氏に、親はどうなのかみたいなことを訊いて。とりあえず、その日はホントに父さん怒ってたけど、終わったらしくて。

私はそのとき、上(二階)でいるように言われて、ひとり部屋でいたんだけど。それでお姉ちゃんの彼は帰ったらしくて。お姉ちゃん泣きながら上にもどってきて、今度、彼氏の両親のところ行くって。普段はすごい大切にしてくれるらしいんです。あつうに。彼氏の家に行ったら、お姉ちゃんはおかしいがうてくれるんだけど。後日、子どもができましたっていうのを言いに行ったら、劇みたいな話なんだけど、彼氏は長男で、すごいお坊ちゃまみたいなでつかい家で。やっぱ家にいてほしいし、結婚はできない、みたいな。お金なら払うから堕ろして、みたいな。うちの両親が言っていたんだけど、部落の血はいらぬ、みたいな。そんな汚い血なんかいらぬ、みたいなことを言われたって。

一番つらいのはお姉ちゃん、そこでお姉ちゃんの彼氏も、なんで説得しなかったんだろうって私は思う。：それで、その子どもは堕ろされた。私的には、その両親に殺されたって気分なんだけど…。部落とかいうのがなかったら、普通にお姉ちゃんも結婚して幸せになれたのかなって思っ。

：お姉ちゃん、どこか遠いところのお寺に毎年行ってるらしい。命日に。

お地藏さんだったつけ、忘れたけど。花とか持っていて、名前も一緒に彼氏とつけたって言うけど。

堕ろした時、最初、病院に母さんとお姉ちゃんと彼氏、三人で行ったらしくて。普段、お姉ちゃんと母さん、めっちゃ仲悪くて、いつもケンカばっかしてるんだけど、お姉ちゃんの目が覚めたとき彼氏しかいなくて、母さんがいなくて。母さんは気を利かせて二人にさせた方がいいかなって、お姉ちゃんが目が覚める前に、家に帰ったらしいんだけど。でもお姉ちゃんは、目が覚めると彼氏がいなくて、見捨てられたって思ったらしくて、「母さん、母さん」って、すごい泣いたらしくて。

お姉ちゃんは、私にとつてもうひとりのお母さんみたいな存在で、私的には、父さんとか母さんよりお姉ちゃんが一番好きで、一番大事にしてくれる。妹だから。今まで私がどんなにお姉ちゃんに悪いことをしても、嫌なことをしても、怒るけど、お姉ちゃんは絶対私に仕返ししたりしてこないし、めっちゃ大切にしてくれる。

：昨日、私、学校休んでたじゃない。お姉ちゃんも仕事休みで、私が病院行くとき、お姉ちゃんに連れて行ってもらったんだけど、そのときに、ちよつと気晴らしにドライブ行く？ってなつて、二人で出かけたの」

何度も何度も涙で途切れたカレンの言葉は、さらに続いていきます。

(次号に続く)